

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520236

研究課題名（和文）アンドリュー・マーヴェルと17世紀英文学における戦争と平和について

研究課題名（英文）Andrew Marvell, War and Peace in Seventeenth-Century English Literature

研究代表者

吉中 孝志（YOSHINAKA TAKASHI）

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30230775

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：英米文学

1. 研究計画の概要

英国17世紀の文化は、思想史的には近代が始まるとされる時代に展開されたものである。その近代的な精神世界の中で旧来の文学的な表現形態が変化することは容易に想定できるが、特に、政治・宗教的な思想変化の中で文学作品がどのような表現上の変化を生じさせられ、さらに重要と思われるのは、当時、現代のマス・メディアが果たす役割を担っていた文学作品がどのように政治・宗教に影響を与えていたかを検証することが、全体構成の主要な軸となる。具体的には、英国の外交史に関わる文献と摂理、自由意志の概念に関わる宗教的、神学的文献の脈絡の中で、政治と文学の接点をなす重要な作品を残したアンドリュー・マーヴェルの詩及び散文を分析対象としながら、現代の平和学に資することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

政治・宗教の文脈で考察されたアンドリュー・マーヴェルに関する先行研究の整理統合を継続して行ってきた。散文作品と詩作品への今世紀に入ってから加えられた新たな文献学的注釈による知見を精査してきたが、特に Nicholas McDowell による *Poetry and Allegiance in the English Civil Wars* は Thomas Stanley を中心とする詩人たちの集まりが、マーヴェルの言説に関わっているとする論を展開しており、平和・反戦論の視点からも興味深い知見を示唆するものであることが判明した。また、連合王国での新たな文献調査と国際学会での他の研究者との意見交換によって、清教徒革命前後での宗教的寛容主義が、Lord Falkland を中心とする

the Great Tew Circle によって主張されており、その考え方が、John Hales や George Sandys らを經由してマーヴェルの寛容思想と詩的表現に影響を与えていることを発見した。Sir William Davenant による叙事詩 *Gondibert: An Heroic Poem* に関しては、その精読は The Third Book まで進んでおり、引き続き反戦思想の分析に努めている。礼拝行為としての「祈り」が、イデオロギー上の差異を顕在化させる反面、「賛美」がイデオロギー上の敵対意識を反映させないものである、というダヴェナントの指摘が、マーヴェルの詩作品「バミュエダ諸島」の中で『詩篇』が扱われる際の表現に影響を与えていることを突き止めることができた。清教徒革命戦争前と戦中における王党派との対立、さらに、清教徒革命後のクロムウェル政権下における共和制支持者との確執の中で、クロムウェル支持派が非難、糾弾される際に、終末思想を含む「摂理」の概念がどのように変容し、詩作上の表現に影響を及ぼしているかをマーヴェルの‘Upon Appleton House’ 及び ‘To His Coy Mistress’ を分析することで考察した。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。
(理由) 2009年の国際学会開催と参加は当初、予定されていなかったものであり、経費のすべてを海外出張費に当てざるをえなかった。そのため、予定していた研究書籍を購入することができなかった。

4. 今後の研究の推進方策

反戦思想に関して、マーヴェル作品と重要な

関連があることを仮定して精読を行ってきた Davenant の作品を 2010 年前半までにその調査を完了し、後半にはその成果を纏めたい。また、7月に英国で開催される 17 世紀国際学会では、ミルトンの反戦思想について研究発表を行う予定で、他の研究者との意見交換とその知見を組み込みながらマーヴェルに関する研究成果を 9 編からなる論文集成として成果発表の準備をする予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 吉中孝志 The Book of Mormon を文学的に読むとどうなるか 『表現技術』第 5 巻 13-31 頁 2009 年 査読無

② 吉中孝志 Destiny and Choice: Marvell's 'An Horatian Ode upon Cromwell's Return from Ireland' 『表現技術研究』第 4 巻 25-80 頁 2008 年 査読無

[学会発表] (計 1 件)

① 吉中孝志 The Book of Mormon を文学的に読むとどうなるか モルモニズム研究会 2008 年 9 月 15 日 広島国際学院大学